

# 高山市における 都市OS活用の実践

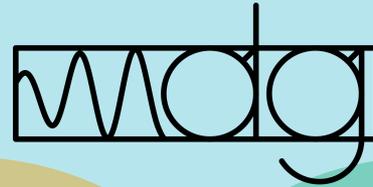
大前裕輝 †, 浦田真由 ‡, 遠藤守 ‡, 安田孝美 ‡

† 名古屋大学 情報学部

‡ 名古屋大学大学院情報学研究科

本研究室では**新しい情報社会の枠組みづくり**に取り組んでいる

名古屋大学  
安田・遠藤・浦田研究室



情報技術と社会が交わることで生じる社会の変化を見極め  
情報技術と社会のあり方を考察する



民間企業



自治体や住民

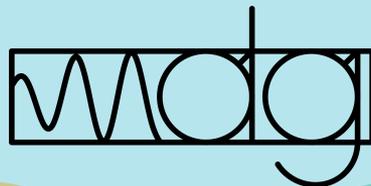
# 高山市での取り組み

## ICTを活用したまちづくりに係る連携協力に関する協定



市内3か所へNES社のAI顔認識カメラ導入

名古屋大学  
安田・遠藤・浦田研究室



観光情報学に基づく知見  
ICT活用のノウハウ・助言  
学会等における研究内容の発表



データ分析

NEC

NECソリューション  
イノベータ株式会社



高山市

市のHPでデータ公開

まちなかにおける観光通行観客数データ（駅前・上三之町・本町3丁目）

※設置場所（岐阜県高山観光案内所の案内板）

- ① 駅前駅前通行人数（CSV 446,000）
- ② 駅前駅前別性別年代別通行人数（CSV 3,495）
- ③ 上三之町通り（岐阜県高山まちかど観光案内所の案内の通り）
- ④ 駅前駅前通行人数（CSV 520,700）
- ⑤ 駅前駅前別性別年代別通行人数（CSV 3,998）
- ⑥ 本町通り（本町3丁目EaTown前の案内の通り）
- ⑦ 駅前駅前通行人数（CSV 5,790）
- ⑧ 駅前駅前別性別年代別通行人数（CSV 43,260）

また、高山市、国立大学法人岐阜国立大学岐阜県立大学、NECソリューションイノベータ株式会社が連携して、ICTを活用したまちづくりの推進に取り組むため、令和3年10月22日に、「ICTを活用したまちづくりに係る連携協力に関する協定」を締結し、本データを活用しています。

① 「ICTを活用したまちづくりに係る連携協力に関する協定」の締結について、はこちら  
② 連携協力の成果報告書「高山市における観光通行観客数システムを用いた客観的な分析」はこちら（PDF 706,300）

先端技術，ソリューション提供  
事業化後のサービス運用設計  
分析，未来予測のノウハウ

フィールドの提供  
事業推進  
市民や関連事業者等の調整

## 高山市における都市OS実装の事例創出と課題抽出

- 都市OSは基盤技術に過ぎないため、地域にとって真に有益なサービスを生み出す必要がある
- 地域の特色を見極めながら、推進体制を模索する必要がある

## 研究の方法

1. 自治体へヒアリングを実施し、具体的な課題を抽出
2. 都市OSを用いた課題解決の実践
  - 大学の研究室内に都市OSのテストベッドを構築
3. 成果と生じた問題について考察

1-3を自治体職員とともに

2つの課題に取り組んだ

## 高山市に特化した現場と「併走」して進めるアプローチ

- テストベッド提供型の先行事例はあるが、自治体をフィールドする研究事例は多くない
- 大学が「お試し環境」を容易することで都市OSへの敷居が下がる
- 産学官民連携の強みを活かした地域密着型の社会貢献

## 現場の課題

2021年1月

高山市役所では混雑状況は未発信

緊急事態宣言下で全国で感染者が増加

→新年度の始まりにかけて来庁者が増える見込み

3密を避ける工夫が急がれた



## 実証の目的

- 市民向けの混雑状況発信に，都市OS(FIWARE)を使うことで
  - 他場面・他地域への横展開の可能性は？
  - 他のデータの掛け合わせ（例えば混雑予測）の可能性は？
- 都市OS活用の皮切り（都市OSの理解共有とデータ活用の検討）

初歩的段階として庁舎内の取り組みからスタート

# 実証2：交通量データのリアルタイム公開 18

## 現場の課題

3者協定において観光へのICT利活用に取り組んでいる

①本研究室  
OpenDataCam

人, 乗用車, バス, バイク,  
自転車, トラック

②NES社による  
顔認識AIカメラ

人 (性別, 年齢別)

→ エッジデバイスの開発元が異なる

データの収集基盤が分離

→ リアルタイムなデータ公開はされていない

→ ②は市HPで1ヶ月ごとにcsvファイルを更新(not オープンデータ)

利用者視点に欠ける



## 実証の目的

- 都市OSを使うことで,
  - ベンダに依らないデータ収集&活用の可能性は？
  - 利用者視点のデータ公開の仕組みを実装できるか？